

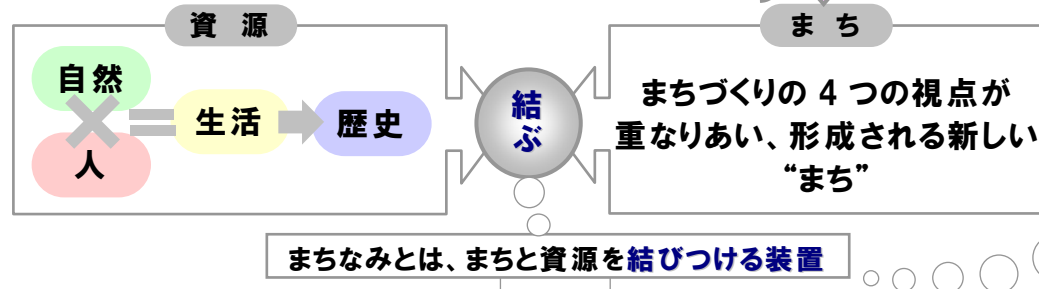
まちなみ形成方針(案)

1. 地区まちなみ形成コンセプト(案)

まち全体の整備方向性を示すまちづくりビジョン(案)の実現に向けて、地域のまちなみ景観に求められる方向性として、地区まちなみ形成コンセプト(案)を設定

◆まちづくりビジョン(案)

- 百年まちづくり ～百年先も愛される 越後百会のまちづくり～
- むかえる：もてなしの空間づくり
 - つたえる：地域らしきの活用
 - みちびく：地域との連携強化
 - つなげる：百年先を見据えたまちづくり



“まちなみ”とは、4つ視点が重なりあう新しい“まち”と“上越市の資源である自然・歴史・生活・人”を“結ぶ装置”として捉え、そして、“次代へと継承すべき資源”となるような景観形成を目指す必要がある。

まちなみとは、まちと資源を結びつける装置

◆まちなみ形成コンセプト(案)：

自然と人が結ばれて生まれた生活や歴史を新しいまちなみに織り込み、次代へと継承すべき“まちなみ”の創造

◆コンセプトイメージ

- 自然とまちを結ぶ・・・自然環境との調和に配慮し、緑や水辺などを素材として、まちの中で自然を感じることでできる景観をつくる
- 歴史とまちを結ぶ・・・歴史資源を取り込み、また時間経過により味わいが創出される、歴史の佇まいを感じることでできる景観をつくる
- 生活とまちを結ぶ・・・子ども達からお年寄りまで、誰もが自由に活動できるような、利用する人への優しさを感じることでできる景観をつくる
- 人とまちを結ぶ・・・住もう人、訪れる人がまちへ飛び出したくなるような、魅力と開放感を感じることでできる景観をつくる

3. 新駅東西の機能分担、及びゾーン・主要軸の景観形成方針

個別施設の具体的なデザイン検討に先立ち、土地利用方針、本地区と中心市街地との関わり、釜蓋遺跡や妙高山等の地域資源の配置を踏まえた、新駅東西の機能分担、特に公共空間に求められる機能を整理。また、個別施設のデザインに向けて、土地利用や主要な軸に対応しためざすべきまちなみ景観の在り方を景観形成方針として設定

- #### ◆東口主な特性
- ・都市拠点(既存市街地)へ接続
 - ・佐渡への玄関口へ接続
 - ・国道18号、北陸自動車道より広域圏へ接続
 - ・国道292号より妙高市へ接続
 - ・周辺土地利用は商業・業務系が主
 - ・周囲には既存市街地が広がる

- #### ◆主に東口に求められる機能
- ・良好な広域交通ネットワークを活かした広域圏を対象とした“結節機能”や“もてなし機能”

- #### ◆共通して求められる機能
- ・居住者や進出企業就業者のための日常生活圏を対象とした“結節機能”
 - ・広域圏からの利用者と地域との“交流機能”

土地利用面での重複はあるが、その他の特性は大きく異なる。

機能を分担し、無駄のない公共投資を図る

- #### ◆西口の主な特性
- ・上信越自動車道より広域圏へ接続
 - ・釜蓋公園への近接性
 - ・妙高山への眺望
 - ・周辺土地利用は商業・業務系だけでなく、住・商共存、住宅系
 - ・周囲には既存市街地とともに広大な農地が広がる

- #### ◆主に西口に求められる機能
- ・釜蓋公園の特性を活かすための“結節機能”や“もてなし機能”、妙高山の雄大さを活かした“展望機能”



・東口の乗降客数(想定)＝約2,000人/日
・西口の乗降客数(想定)＝約1,000人/日

2. まちなみデザインの方向性と方針(案)

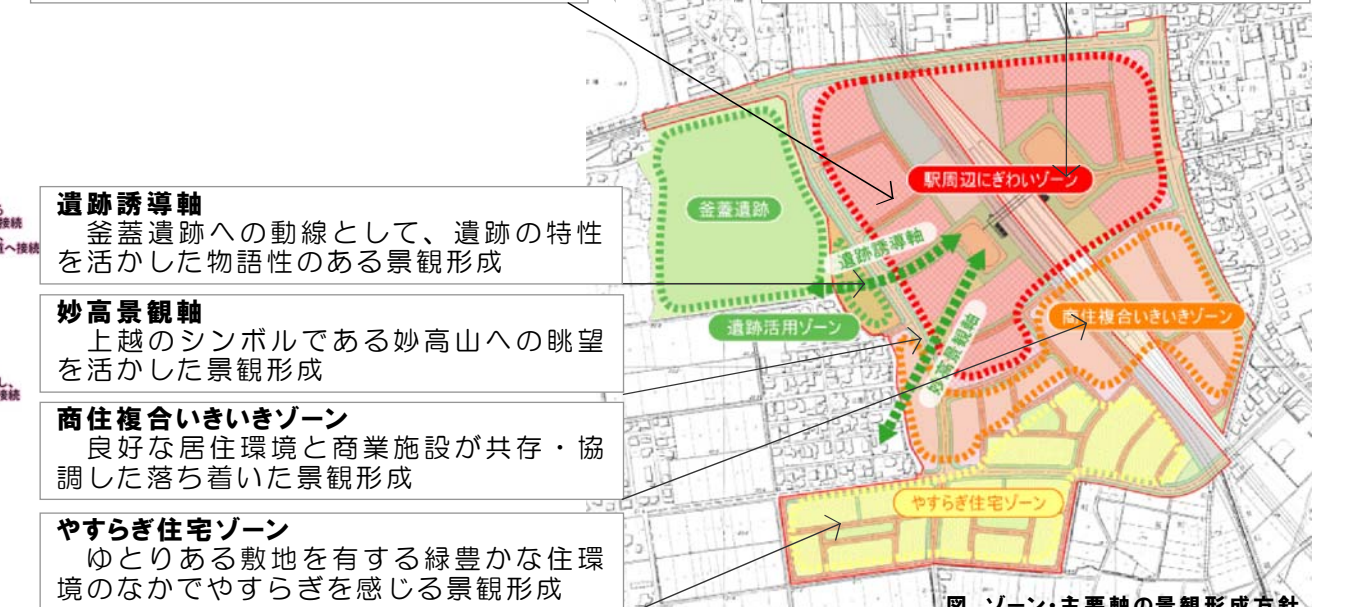
まちなみ形成コンセプト(案)におけるコンセプトイメージから考えられるまちなみデザインの方向性と、方向性に沿ったデザインを実現するための統一したデザイン方針を設定

まちなみデザインの方向性	デザイン方針(案)
方向性①：自然とまちを結ぶ →妙高山などへの眺望を踏まえた施設配置、デザイン →地域環境に配慮した色彩 →自然との調和に配慮した積極的な緑化	○妙高山等への眺望に配慮した施設配置、高さ、屋外広告物等の誘導 ○妙高山への眺望を引き立てる視点場・近景のデザイン ○環境配慮型素材や自然エネルギーの積極的な採用 ○上越市の豊かな自然や歴史性に配慮した落ち着いたベースカラーを採用 ○上越市らしさ・地区特性を表現するイメージカラーの設定 ○商業施設や住宅外構、公共空間への積極的な緑化 ○地域の植生を活かした緑豊かな空間の創出
方向性②：歴史とまちを結ぶ →歴史性を感じさせる施設デザイン →釜蓋遺跡との連携を踏まえた施設配置、デザイン	○上越の歴史性や雁木造りの“助け合い・思いやり”の精神を継承した、公共空間と共用空間の一体的なデザインによるもてなしの空間づくり ○弥生時代の生活文化を受け継ぐ物語性のあるデザイン
方向性③：生活とまちを結ぶ →地域性を感じさせる材質の採用 →人にやさしい施設デザイン	○地場材(木材やステンレスなど)の活用による、地域の産業文化を表現した愛着の持てるデザイン ○ユニバーサルデザイン+αの視点を取り入れた、円滑な移動と快適な利用への配慮 ○雪の対策・活用 ○ライフサイクルコストを意識した維持管理に優れた素材・工法の採用
方向性④：人とまちを結ぶ →飽きのこない施設デザイン →魅力や開放感を感じさせる施設デザイン	○地域に根ざしたデザインや経年変化を考慮した素材の採用 ○まちなみデザインの方向性①～③において、地域特性の活用や開放感のある空間づくりを念頭に検討

駅周辺にぎわいゾーン

上越地域の新たな玄関口および地区の顔として、地区の環境と都市機能の調和を図り、緑豊かな広がりのある景観形成

- 西口：自然と歴史の顔づくり**
妙高山などの豊かな自然環境や釜蓋遺跡の歴史、くらし、文化を感じさせる景観形成
- 東口：にぎわいの顔づくり**
上越の歴史や文化を要素としつつ、広域圏の玄関口として相応しい賑わいを感じさせる景観形成



- 遺跡誘導軸**
釜蓋遺跡への動線として、遺跡の特性を活かした物語性のある景観形成
- 妙高景観軸**
上越のシンボルである妙高山への眺望を活かした景観形成
- 商住複合いきいきゾーン**
良好な居住環境と商業施設が共存・協調した落ち着いた景観形成
- やすらぎ住宅ゾーン**
ゆとりある敷地を有する緑豊かな住環境のなかでやすらぎを感じる景観形成

図 ゾーン・主要軸の景観形成方針



第2回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

新幹線駅周辺地区のまちなみ形成方針(案)

平成 21 年 6 月 26 日

上 越 市

～ 目 次 ～

1)地区まちなみ形成コンセプト	1
2)まちなみデザインの方向性とまちなみデザイン方針	3
3)新駅東西の機能分担、及びゾーン・主要軸の景観形成方針	6

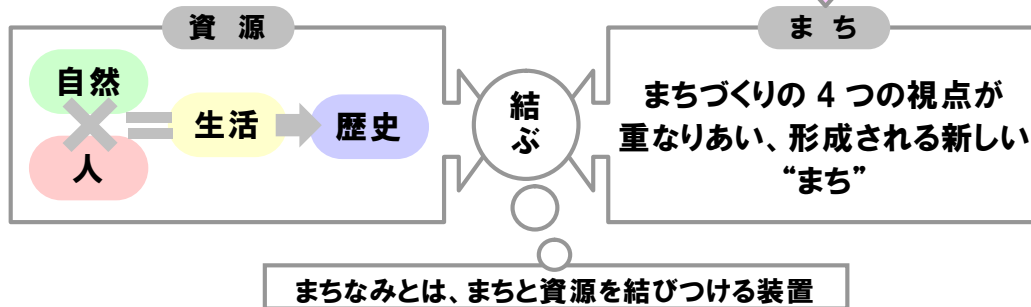
1) 地区まちなみ形成コンセプト

先に検討したまちづくりコンセプト(案)を踏まえ、本地区のまちなみ形成に関するコンセプト(案)を以下のとおり提案する。

◆まちづくりコンセプト(案)


百年まちづくり ～百年先も愛される 越後百会えちごひゃくえのまちづくり～

- むかえる：もてなしの空間づくり
- つたえる：地域らしさの活用
- みちびく：地域との連携強化
- つなげる：百年先を見据えたまちづくり



◆まちなみ形成コンセプト(案)

まちなみとは、4つのまちづくりの視点が重なりあう新しいまちと、上越市の資源である自然、歴史、生活、人を結ぶ装置として捉え、これらが結びつき、上越らしさを創造し、次代へと継承する目指し、以下のようなコンセプト(案)を提案する。



◆まちなみ形成コンセプト(案)：

自然と人が結ばれて生まれた生活や歴史を
新しいまちなみに織り込み、
次代へと継承すべき“まちなみ”の創造

◆コンセプトイメージ

自然とまちを結ぶ・・・自然環境との調和に配慮し、緑や水辺などを素材として、まちの中で自然を感じることでできる景観をつくる

歴史とまちを結ぶ・・・歴史資源を取り込み、また時間経過により味わいが創出される、歴史の佇まいを感じることでできる景観をつくる

生活とまちを結ぶ・・・子ども達からお年寄りまで、誰もが自由に活動できるような、利用する人への優しさを感じることでできる景観をつくる

人とまちを結ぶ・・・住もう人、訪れる人がまちへ飛び出したくなるような、魅力と開放感を感じることでできる景観をつくる

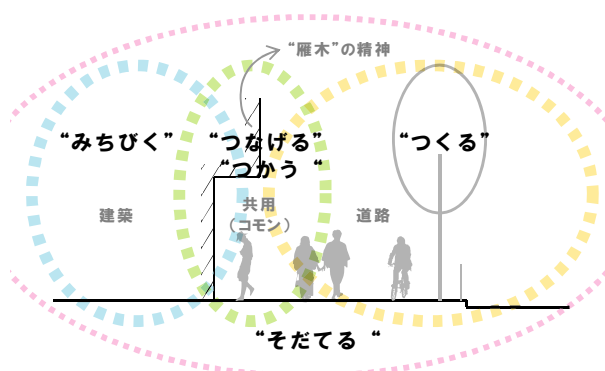
◆まちなみ形成の基本的な考え方

まちなみ形成にあたっては、駅や駅前広場、街路等の公共空間（**つくる景観**）がまとまりのあるデザインとなる必要があるほか、沿道に立地する商業施設や住宅等の建築物等（**みちびく景観**）とのデザイン的な調和が必要となる。

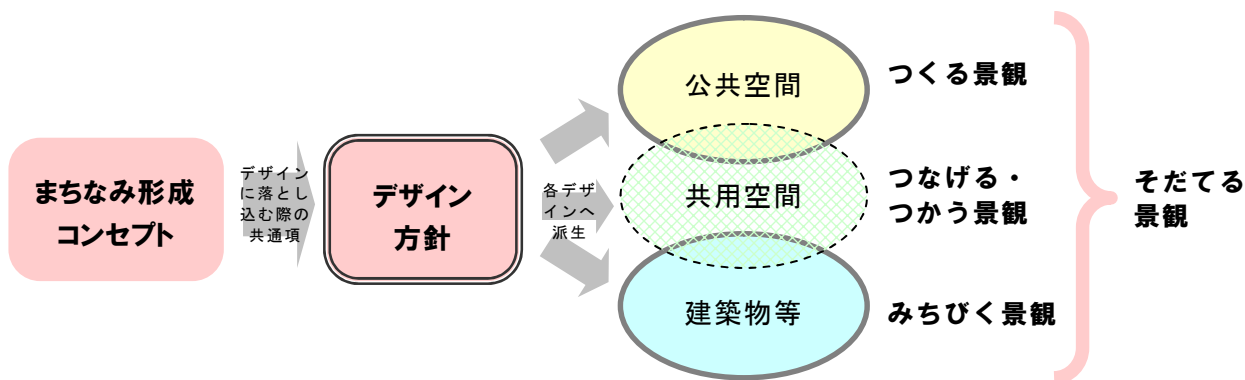
特に、雪国の文化とも言える雁木は、公共空間に開かれた半公共的空間（**つなげる・つかう景観**）として、その空間だけでなく、暮らす人々のところや、時代という時間を結ぶものであり、この雁木の精神を引き継ぎ、公共空間と建築物等との間に位置する共用空間“コモンスペース”のデザインや利用についても配慮する必要がある。

また、これらが一体となったまちなみが時代の流れに応じて味わいを高め、100年先にも色あせない良好なまちなみ形成（**そだてる景観**）につながると考える。

そして、これらの空間がコンセプトを受けて一体的なまちなみとなるためには、各空間の形成における共通項をデザイン方針として設定し、個別デザインにつなげていく。



まちなみ景観の考え方



空間のまとまりを考慮したデザイン方針を設定

2) まちなみデザインの方向性とまちなみデザイン方針(案)

本地区におけるまちなみは、まちなみ形成コンセプト（案）を踏まえて検討を行う必要がある。

以下に、まちなみ形成コンセプトにおけるコンセプトイメージから考えられるまちなみデザインの方向性と、方向性に沿ったデザインを実現するための統一したデザイン方針を設定する。

◆まちなみデザインの方向性① ～自然とまちを結ぶ～

→ 妙高山などへの眺望を踏まえた施設配置、デザイン

妙高山への眺望を踏まえた土地利用計画の考え方を踏襲し、各種施設の配置やデザインについても妙高山をはじめとする山並み等への眺望を活かせるものとする

(デザイン方針)

- 妙高山等への眺望に配慮した施設配置、高さ、屋外広告物等の誘導
- 妙高山への眺望を引き立てる視点場・近景のデザイン
- 環境配慮型素材や自然エネルギーの積極的な採用



妙高山への眺めを活かした
整備・誘導のイメージ

→ 地域環境に配慮した色彩

上越市の良さ、地域資源を知ってもらうため、地域らしさ、上越らしさを施設デザインに取り込む

(デザイン方針)

- 上越市の豊かな自然や歴史性に配慮した落ち着いたベースカラーを採用。
- 上越市らしさ・地区特性を表現するイメージカラー（桜、稲穂の黄金色、雪国の純白、山並み・田園の緑色、日本海の青（紺碧）、弥生の赤褐色、染物等）の設定。

イメージカラー



さくら



黄金色



みどり



純白

→ 自然との調和に配慮した積極的な緑化

周囲の自然環境との調和を図るため、公共空間だけでなく、地区全体で緑を感じることができるよう、積極的な緑化を図る

(デザイン方針)

- 商業施設や住宅外構、公共空間への積極的な緑化
- 地域の植生を活かした緑豊かな空間の創出



施設のセットバックと沿道の緑化
(東京 国立市 大学通り)

◆まちなみデザインの方向性② ～歴史とまちを結ぶ～

→ 歴史性を感じさせる施設デザイン

斐太遺跡群や上杉謙信公などの歴史性や、上越独自の景観を形成する雁木造りなどを施設デザインに取り込む

(デザイン方針)

- 上越の歴史性や雁木造りの“助け合い・思いやり”の精神を継承した、公共空間と共用空間の一体的なデザインによるもてなしの空間づくり



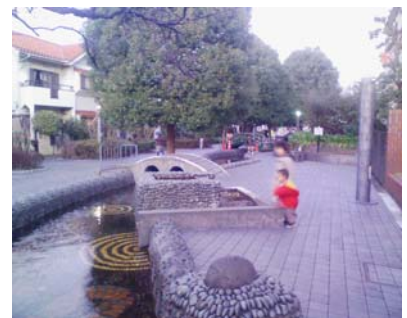
雁木の精神の表現や形状・構造の採用

→ 釜蓋遺跡との連携を踏まえた施設配置、デザイン

地域活性化の核ともなる釜蓋遺跡への駅利用者の誘導を図るため、駅・駅前空間と釜蓋遺跡公園との連携に配慮した施設配置、デザインとする

(デザイン方針)

- 弥生時代の生活文化（稲作、環濠、水文化、非装飾・赤褐色・金属器、住居の形状、昔から変わらない風景の保全など）を受け継ぐ物語性のあるデザイン



駅と公園・美術館を結ぶプロムナード
(世田谷区)

◆まちなみデザインの方向性③ ～生活とまちを結ぶ～

→ 地域性を感じさせる材質の採用

地域からの要請や雁木構造を踏まえた木材や市内立地企業が製造するステンレス等について、構造材や化粧材などの用途に合わせた活用を図る

(デザイン方針)

- 地場材（木材やステンレスなど）の活用による、地域の産業文化を表現した愛着の持てるデザイン



地場の木材と伝統芸能を取り入れたデザイン(金沢駅)

→ 人にやさしい施設デザイン

新幹線利用者のみならず、地域で生活する人が使いやすい、人にやさしい空間づくり、そして環境にやさしい空間づくりを図る

(デザイン方針)

- ユニバーサルデザイン+αの視点を取り入れた、円滑な移動と快適な利用への配慮
- 雪の対策・活用
- ライフサイクルコストを意識した維持管理に優れる素材・工法の採用



段差をなくし、雨の日でも
歩きやすい舗装(透水性)に(静岡県沼津駅)



分かりやすく案内するサイン
(さいたま新都心)

◆まちなみデザインの方向性④ ～人とまちを結ぶ～

→ 飽きのこない(時代に流されない)施設デザイン

永年に渡り、多くの人々に愛される空間となるよう、時代性に流されない空きのこないデザインによる空間づくりを図る

(デザイン方針)

○地域に根ざしたデザインや経年変化を考慮した素材の採用



長年に渡るまちづくりの取組が生み出した良好な景観
(長野県小布施町)



地域の日常の風景となるデザイン
(岐阜県各務原市学びの森)

→ 魅力や開放感を感じさせる施設デザイン

地域の魅力である妙高山などの山並みや歴史性を感じさせる施設配置、デザインによる魅力づくりを図る

また、妙高山等の山並みへの配慮とあわせ、開放感を感じさせる施設配置、デザインによる開放感の演出を図る

(デザイン方針)

○まちなみデザインの方向性①～③においては、地域特性の活用や開放感のある空間づくりを念頭に施設配置、デザインを検討

◆まちなみデザインの方向性 ～まとめ～

以上の4つのコンセプトイメージから考えられるまちなみデザインの方向性を以下に整理する。

まちなみデザインの方向性① 自然とまちを結ぶ	まちなみデザインの方向性② 歴史とまちを結ぶ	まちなみデザインの方向性③ 生活とまちを結ぶ	まちなみデザインの方向性④ 人とまちを結ぶ
<ul style="list-style-type: none"> → 妙高山などへの眺望を踏まえた施設配置、デザイン → 地域らしさ、上越らしさが感じられる施設デザイン → 自然との調和に配慮した積極的な緑化 	<ul style="list-style-type: none"> → 上越市の歴史性を感じさせる施設デザイン → 釜蓋遺跡との連携を踏まえた施設配置、デザイン 	<ul style="list-style-type: none"> → 地域性を感じさせる材質の採用 → 人にやさしい施設デザイン 	<ul style="list-style-type: none"> → 飽きのこない(時代に流されない)施設デザイン → 魅力や開放感を感じさせるデザイン

まちなみデザインの方向性のまとめ

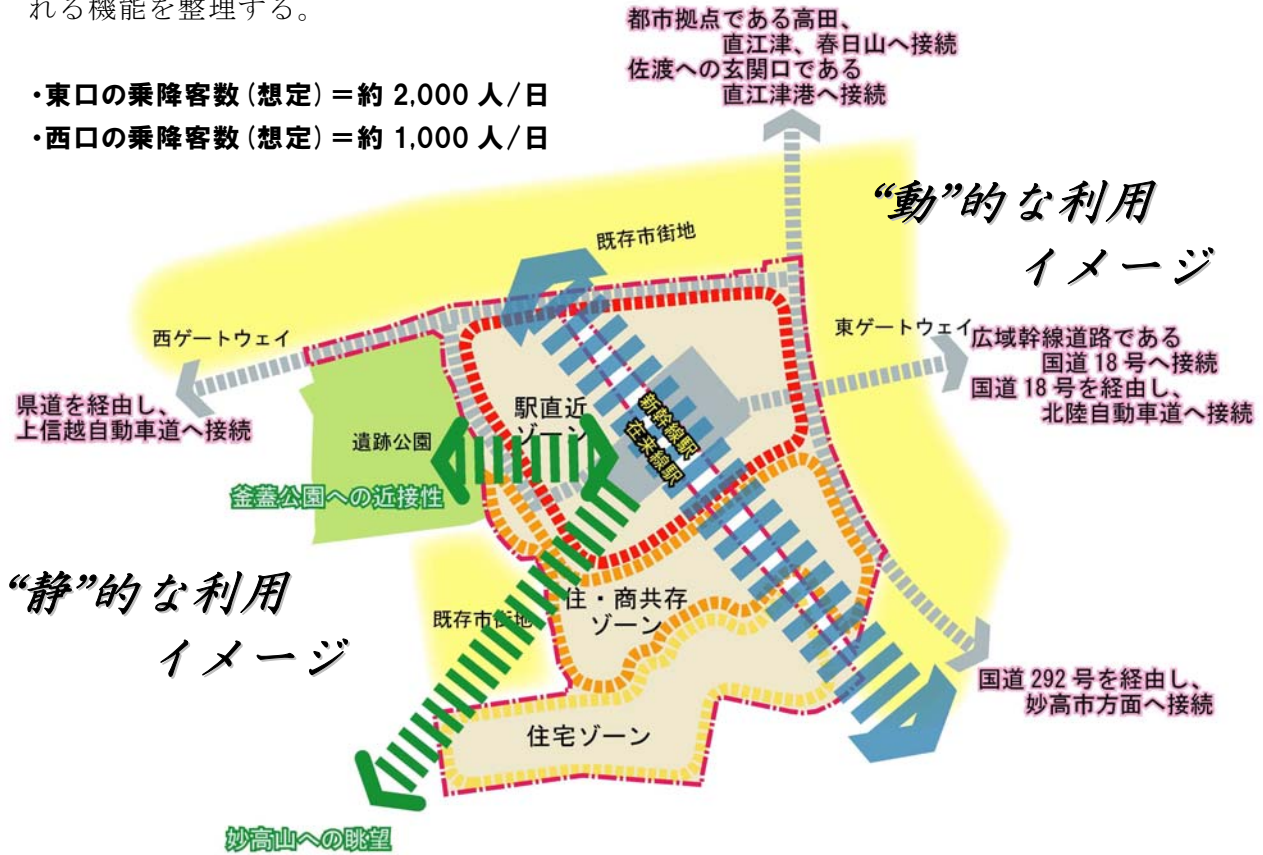
- 上越の歴史性や妙高山をはじめとする周囲の山並みへの眺望などを地域らしさ、上越らしさとして捉え、これらに配慮した施設配置、施設デザインとする
- 地域らしさ、上越らしさのデザインへの展開においては、地域環境の維持・保全、利用しやすさ、時代に流されない永続性、経年変化に対する柔軟性に配慮する

3) 新駅東西の機能分担、及びゾーン・主要軸の景観形成方針

前項のまちなみデザイン方針を踏まえて個別施設の検討を行うこととなるが、先に検討した土地利用方針、本地区と中心市街地との関わり、釜蓋遺跡や妙高山等の地域資源の配置を踏まえると、新駅の東西では必要となる機能が異なると考えられる。

このため、ここでは個別施設の検討に先立ち、新駅東西の機能分担、特に公共空間に求められる機能を整理する。

- ・東口の乗降客数(想定) = 約 2,000 人/日
- ・西口の乗降客数(想定) = 約 1,000 人/日



◆西口の主な特性

- ・ 上信越自動車道より広域圏へ接続
- ・ 釜蓋公園への近接性
- ・ 妙高山への眺望
- ・ 周辺土地利用は商業・業務系だけでなく、住・商共存、住宅系
- ・ 周囲には既存市街地とともに広大な農地が広がる

◆東口の主な特性

- ・ 都市拠点（既存市街地）へ接続
- ・ 佐渡への玄関口へ接続
- ・ 国道 18 号、北陸自動車道より広域圏へ接続
- ・ 国道 292 号より妙高市へ接続
- ・ 周辺土地利用は商業・業務系が主
- ・ 周囲には既存市街地が広がる

土地利用面での重複部分はあるが、その他の特性は大きく異なる。

◆主に西口に求められる機能

釜蓋公園の特性を活かすための“**結節機能**”や“**もてなし機能**”、妙高山の雄大さを活かした“**展望機能**”

- ・ 利用イメージは“**静**”

◆主に東口に求められる機能

良好な広域交通ネットワークを活かした広域圏を対象とした“**結節機能**”や“**もてなし機能**”

- ・ 利用イメージは“**動**”

機能を分担し、無駄のない公共投資を図る

◆共通して求められる機能

- ・ 居住者や進出企業就業者等のための日常生活圏を対象とした“**結節機能**”
- ・ 広域圏からの利用者と地域との“**交流機能**”

まちなみデザイン方針や、前頁にて整理した駅東西の機能分担を踏まえつつ、個別施設へデザインを展開するために、土地利用や主要な軸に対応した目指すべきまちなみ景観のあり方を景観形成方針として以下に整理する。

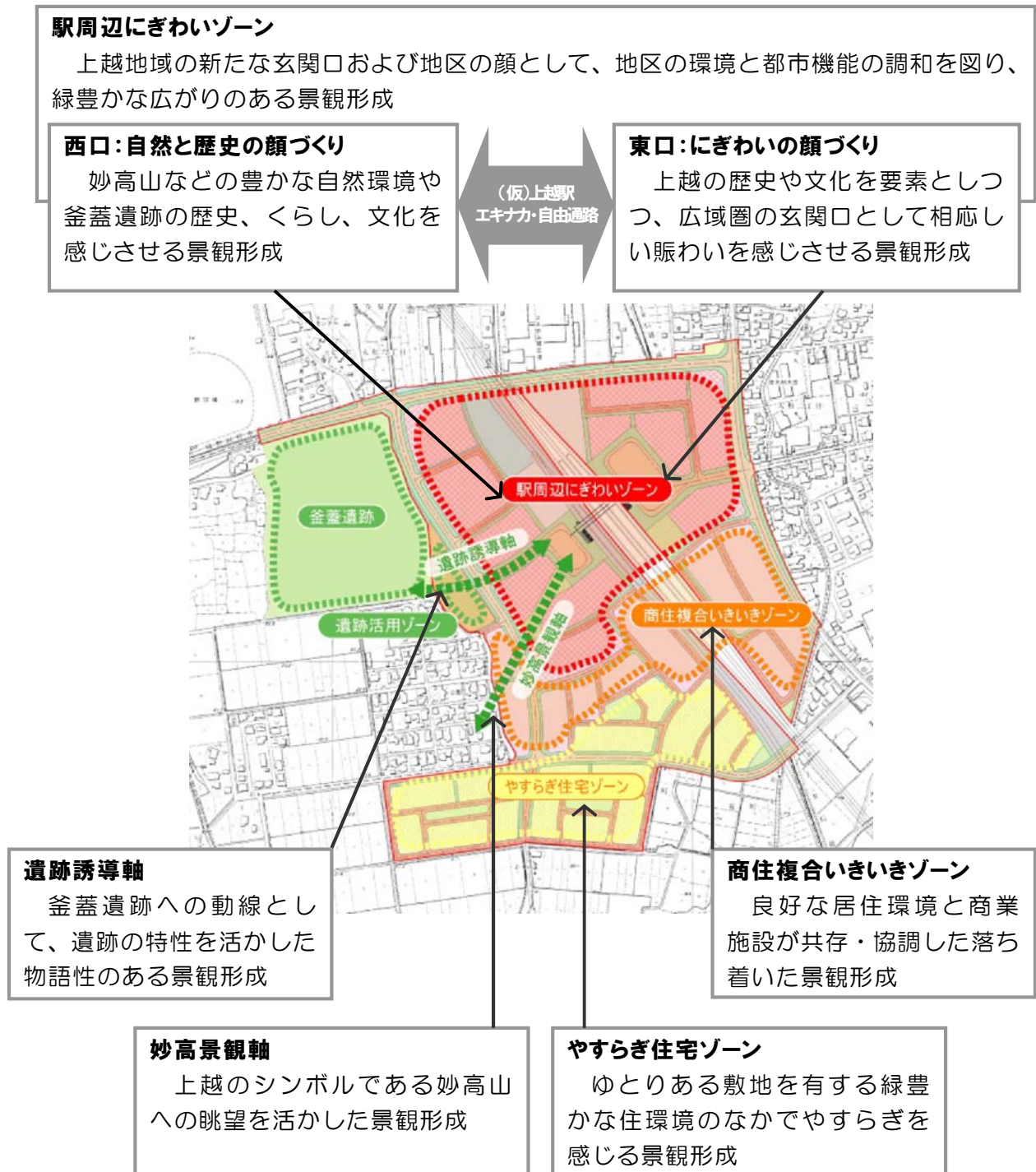


図 ゾーン・主要軸の景観形成方針

以上の景観形成方針を踏まえて、公共空間および民間空間のデザインにおいて配慮すべき事項を次頁以降に整理した。

◇公共空間において配慮すべき事項◇

○エキナカ空間・自由通路

エキナカ空間や自由通路は上部を鉄道施設が覆うことから、閉鎖的な空間として形成される。これら施設においては、利用者の快適性を向上させ、くつろぎたくなるような空間づくりが必要と考えられる。

⇒ 間接照明や自然採光による明るさ、出入り口等における開放性、場所の明確性 等



JR 山形駅
駅前面へのガラス構造の採用による自然採光



JR 小倉駅
出入り口を色分け表示



JR 佐久平駅
駅前面 2F レベルの展望空間

○駅前広場・街区公園

駅前広場や街区公園は面積が大きく、民間敷地との接続面も広くなることから、民間敷地側との連続性に配慮した空間づくりが必要と考えられる。

⇒ 動線の連続性や視覚障害者誘導用ブロックとの調和、空間を構成する要素(デザイン)の統一、イベント開催等への対応(供給処理施設)、外国人旅行者への対応 等



横浜市 MM21 地区
植栽による歩行者動線の強調



仙台市定禅寺通
ストリートジャズフェスティバル



高山市
多言語標示のサイン



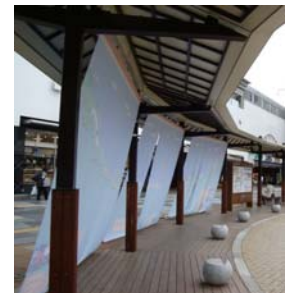
広島県呉駅前広場
舗装パターンに組み込まれた視覚障害者誘導用ブロック



幸手市幸手駅前広場
車両乗降時の降雨に配慮したシェルター



JR 上田駅
和を基調としたデザインの統一



○シンボルロード

道路としての機能とともに、シンボルロードとしての機能を満足させる必要があることから、歩行や通行に関する基本機能の充実とともに、駅や釜蓋遺跡への方向性や沿道環境との調和についても考慮する必要があると考えられる。

⇒ 植栽による視線のコントロール、沿道の乗り入れとバリアフリーの両立、接続する駅前広場との連続性等



山梨県甲府市
列植により山並みへの視線を強調



埼玉県熊谷市
車いす利用者や弱視の方に
配慮した歩車道境界ブロック



JR 小倉駅駅前広場内 ELV
ビクトグラムをデザインとして活用

◇民間空間において配慮すべき事項◇

個別建築物については、周辺環境との調和に配慮した高さや色彩の採用などが考えられ、また公共空間との連続性に配慮したCOMMONスペースの配置など、公共空間との連携を考慮する必要があると考えられる。

⇒ 来訪者をもてなすCOMMONスペース、公共空間と一体となった設え、オープンスペースや植栽等による開放性や景観にも配慮したまちなみ形成 等



京都市内
屋外機器を遮蔽



埼玉県坂戸市
開放的で、緑化された住宅地



横浜市 MM21 地区
来訪者への憩い空間の提供



横浜市 MM21 地区
歩道と一体となった広場空間